

【実施概要】

会議名	令和2年度三郷市立小・中学校通学区域編成審議会（適正規模・適正配置第2回）
日時	令和2年8月19日（水）午後1時30分～午後3時00分
場所	三郷市役所6階 全員協議会室
出席者	佐々木六男（会長）、鏡宏美（副会長）、肥沼武史、雄賀多恒郎、小堺正之、田村公平、内田和夫、前田雅久、小橋恒夫、石田高幸
事務局	[教育委員会] 魚躬隆夫（学校教育部長）、浮田勝之（学校教育部理事兼副部長）、高橋英樹（学校教育部参事兼学務課長）、木原正裕（教育総務課長）、柳田徹（教育総務課副参事兼教育環境整備室長）、石山智仁（学務課学務係長）、藤田昇平（教育総務課教育環境整備室主事）

【議事内容】

1 開会

事務局	三郷市立小・中学校通学区域編成審議会を開会いたします。
-----	-----------------------------

2 会長あいさつ

事務局	会長よりごあいさつをお願いいたします。
会長	（会長あいさつ）

3 会議の公開について

会長	会議の公開について審議いたします。事務局に説明を求めます。
事務局	（会議の公開について）
会長	本日の審議会は公開することについて、ご異議ありませんか。
一同	異議なし。
会長	ご異議なしと認め、議事を進めます。 傍聴の申し込み状況について、事務局に報告を求めます。
事務局	本日、傍聴の申し込みはありません。
会長	傍聴者がおりませんので、このまま議事を進めます。

4 議題

（1）自治体規模と学校数について

会長	自治体規模と学校数について、事務局に説明を求めます。
事務局	ア 自治体人口と学校数（三郷市と県内他自治体の比較）について 本市の人口・学校数・学校の人口比率は、令和2年5月1日時点で人口142,819人、小学校が19校で人口7,517人当たり1校、中学校が8校で人口17,853人当たり1校となっております。埼玉県内において本市と人口規模に近い自治体、狭山市・入

	<p>間市・深谷市・朝霞市・戸田市の5市の平均としては、小学校が15校で人口10,438人当たり1校、中学校が8校で人口19,301人当たり1校となっております。近隣自治体である越谷市・草加市・春日部市・八潮市・吉川市・松伏町の5市1町については、本市と人口規模が違うため、実際の学校数について大きく違いがありますが、平均としては小学校が16校で人口10,274人当たり1校、中学校が8校で人口19,419人当たり1校となっております。こうして比較してみると、本市の場合は小学校の数は平均より多めで、中学校の数は平均に近いことが分かります。</p> <p>イ 自治体面積と学校数（三郷市と県内他自治体の比較）について 本市の面積・学校と自治体面積の比率は、面積が30.22k㎡、小学校の1校当たりの学区面積の平均が1.59k㎡、中学校の1校当たりの平均が3.78k㎡となっております。埼玉県内において本市と人口規模が近い自治体5市の平均としては、小学校が1校当たり3.30k㎡、中学校が1校当たり6.01k㎡となっております。近隣自治体5市1町の平均としては、小学校が1校当たり2.89k㎡、中学校が1校当たり面積5.27k㎡となっております。こうして比較してみると、本市の場合は小・中学校ともに1校当たりの学区面積が小さいことが分かりますが、この傾向は、朝霞市・戸田市・草加市・八潮市にも見られ、これら東京都と近接している自治体では1校当たりの学区面積が小さく、言い換えれば、通学距離が短い傾向であることが読み取れます。 以上で説明を終わります。</p>
会長	自治体規模と学校数についての説明が終わりました。質問やご意見がありましたら、お願いいたします。
委員	三郷市以外で学校統合を検討している自治体はどれくらいありますか。
事務局	本市で平成以降に学校統合したのは、当時の瑞沼小とさつき小、彦糸小と北郷小で、学校数としては2校減りました。他の自治体について、現時点で検討段階にあるかについては不明ですが、平成以降の学校の統合状況については調査いたしました。まず、本市と人口規模が近い自治体5市の中で、平成以降に学校統合したのは狭山市で、学校数としては4校減っております。続いて、近隣自治体5市1町の中では、平成以降に学校統合したのは草加市と春日部市で、学校数としては、草加市は1校、春日部市は5校減っております。今後については、少子高齢化社会を迎えており、他の自治体についても何らかの動きがあるかもしれません。
会長	近隣自治体の中では草加市と春日部市の2市で学校統合があったということですが、学校統合に至った理由については分かりますか。
事務局	統合に至った理由については、インターネット上にあった資料となりますが、草加市を例にとると、本市のみさと団地や早稲田団地と同じ独立行政法人都市再生機構（以下「UR都市機構」）が事業を行った草加市の松原団地内の小学校について、昭和44年に1,372人であった児童数が、その後、平成20年には児童数が150人まで減少し、もう1つの学校と統合しております。ただし、近年の松原団地では、団地の建て替えが進んでおり、子育て世代がまた増えてきているのではないかと思います。
会長	ご質問は以上でよろしいですか。自治体規模と学校数につきましては終了します。

(2) 学校の小規模化の進む地域について

会長	学校の小規模化の進む地域について、事務局に説明を求めます。
事務局	<p>令和2年3月改定の三郷市立小・中学校教育環境整備計画（以下「教育環境整備計画」）の24ページと25ページをお開きください。これは令和25年度までの小学校の学級数の推計を5年ごとに表したものです。この中で、教育環境整備室としては、令和2年度に生まれた子が小学校に入学するのが令和9年度になることや、現在の小学1年生が中学3年生になるのが令和10年度であることなどから、市内の居住者の傾向がある程度読みやすい令和10年度頃の学級数や児童数を1つのターゲットにして、学校の小規模化への対応を検討していきたいと考えております。本日は、令和10年度の地図に小規模校として示されている地域として、小学校5地域、中学校2地域をピックアップしました。学校の適正規模・適正配置の視点で、どの辺りの地域から小規模化への対応を行っていけば良いのか、ご検討いただければと思います。</p> <p>ア 検討対象地域（丹後小・前間小・後谷小）について</p> <p>前間小の令和10年度の児童数は205人で学級数が7学級という推計になっております。後谷小は175名で6学級、全て学年が1学級となっております。丹後小は240名で10学級となっております。また、学校間の距離については、前間小と後谷小が635m、前間小と丹後小が840m、後谷小と丹後小が715mです。各学校とも比較的近い距離関係にあることが分かるかと思えます。さらに、通学距離の基準である半径2kmの円については、どの地域も十分半径2km以内に入っています。</p> <p>この地域の特徴としては、前間小と後谷小の児童数が既に少なくなっており、どちらも単学級の学年が大部分を占め、今後もその傾向が続いていくことが挙げられます。また、この地域は早稲田団地の入居開始時期である昭和55年辺りから児童が増え、昭和56年に丹後小が開校し、その後、昭和59年に前間小、平成4年に後谷小が開校しました。いつ学校が開校したかについては、教育環境整備計画の2～3ページに小・中学校それぞれの沿革を示しております。なお、平成3年当時の前間小は、児童数1,310人で学級数37学級を超えており、当時、本市で最も児童数が多い学校で、現在の新和小よりも多い状態でした。</p> <p>今後この周辺の地域では、(仮称)三郷流山橋の建設や三郷料金所スマートインターチェンジのフルインター化などが予定されているため、これまで以上に便利になっていくことが期待されておりますが、これらの予定地周辺は都市計画上、市街化調整区域であるため、新しいマンションや分譲住宅が建築しにくい立地であり、今後児童数が大幅に増えていくことには、直接結びつくものではないものと考えております。ただし、便利になっていくことで、三郷駅に比較的近い場所では子育て世代が増えていくことも考えられます。</p> <p>イ 検討対象地域（彦糸小・彦郷小）について</p> <p>彦糸小の令和10年度の児童数は163人で学級数が6学級という推計となっております、</p>

全ての学年が1学級となっております。彦郷小は222名で7学級となっております。また、学校間の距離については、470mと近い距離関係にあることが見てとれます。さらに、通学距離の基準である半径2kmについては、どの地域も十分半径2km以内に入っています。

この地域の特徴として、彦糸小については令和2年度現在で既に8学級となっており、今後も児童数が減少していくこと、彦郷小については令和2年度現在で11学級ありますが、今後、児童数が減少していくことが挙げられます。また、この地域はみさと団地の入居が開始した昭和48年頃から児童数が増え、昭和50年に彦糸小が開校し、その後、昭和54年に北郷小、昭和55年に彦郷小が開校しました。なお、北郷小については、平成24年に彦糸小と統合しており、その前年の平成23年の児童数は105人で6学級でした。

今後この周辺の地域では、(旧)北公民館・北児童館と(旧)たちばな保育所が建っていた場所に、多世代交流複合施設が計画されております。また、彦糸小と彦郷小の西側で、三郷北部地区土地区画整理事業が計画されておりますが、こちらの区画整理事業の方は主に物流系の倉庫等を想定しており、児童数が今後大幅に増えていくことには直接結びつくものではないものと考えております。

ウ 検討対象地域(戸ヶ崎小・吹上小・前谷小)について

戸ヶ崎小の令和10年度の児童数は240人で11学級という推計となっております。前谷小の児童数は265名で12学級となっており、こちらは標準規模校を維持しております。吹上小の児童数は155名で6学級となっており、全ての学年が1学級となっております。また、学校間の距離については、戸ヶ崎小と前谷小が640m、前谷小と吹上小が425mです。各学校とも比較的近い距離関係にあることが見てとれます。さらに、通学距離の基準である半径2kmの円については、どの地域も十分半径2km以内に入っています。

この地域の特徴として、吹上小については令和2年度現在で既に8学級となっており、今後も児童数が減少していくこと、前谷小については今後も標準規模校を保っていくこと、戸ヶ崎小については令和2年度現在12学級で、令和5年頃から10年頃にかけて11学級となり、令和11年以降は、再度12学級の標準規模校に戻っていくことが挙げられます。また、この地域は明治6年に戸ヶ崎小(当時は東和村立西小)が開校し、昭和47年に吹上小、昭和53年に前谷小が開校しました。

今後この周辺の地域では、戸ヶ崎小のさらに北側の方で、令和2年2月策定の三郷市南部地域拠点整備基本計画(以下「南部拠点整備計画」)に基づく整備予定地Ⅱとして、防災機能・学校給食センター機能・コミュニティ機能などの計画を検討していくことになっております。

エ 検討対象地域(八木郷小・鷹野小)について

八木郷小の令和10年度の児童数は208人で6学級という推計となっております。鷹野小の児童数は236名で9学級となっております。また、学校間の距離については7

7.5mです。さらに、通学距離の基準である半径2kmの円についても、八木郷小の通学区域は南北に長いですが、半径2km以内には入っています。

この地域の特徴として、特に、八木郷小については令和2年度現在で既に7学級となっており、今後も児童数が減少していくこと、鷹野小については令和2年度現在12学級ありますが、今後は児童数が減少していくことが挙げられます。また、この地域は明治26年に八木郷小（当時は東和村立東小）が開校し、昭和49年に鷹野小が開校しました。

今後この周辺の地域では、鷹野小の北側で、南部拠点整備計画に基づく整備予定地Iとして、交通拠点機能などの計画を検討していくことになっています。

オ 検討対象地域（高州小・高州東小）について

高州東小の令和10年度の児童数は210人で6学級という推計となっております。高州小の児童数は291名で12学級となっております。また、学校間の距離については410mで、近い距離関係にあることが見てとれます。さらに、通学距離の基準である半径2kmの円については、どちらの地域も十分半径2km以内に入っています。

この地域の特徴として、高州東小については令和2年度現在11学級ありますが、今後は児童数が減少していくこと、高州小については令和2年度現在11学級あり、標準規模校の基準である12学級付近を推移していくことが挙げられます。また、この地域は昭和44年に高州小が開校し、昭和55年に高州東小が開校しました。

今後この周辺の地域では、今のところ、具体的に予定されている市の大きな事業の予定はありません。

カ 検討対象地域（彦成中・彦糸中・瑞穂中）について

彦糸中の令和10年度の生徒数は231人で7学級という推計となっております。彦成中の生徒数は200名で6学級となっており、全ての学年が2学級となっております。瑞穂中の生徒数は174名で6学級となっており、全ての学年が2学級となっております。また、学校間の距離については、彦糸中と彦成中が1,770m、彦成中と瑞穂中が615mで、彦成中と瑞穂中は比較的近い距離関係にあることが見てとれます。さらに、中学校の通学距離の基準である半径3kmの円については、どの地域も十分半径3km以内に収まっています。

この地域の特徴として、どの中学校も生徒数は減少傾向にあることが挙げられますが、中学校は学校選択制の影響もあり、現在瑞穂中では、瑞穂中以外の通学区域からかなり多くの生徒が通学している点が挙げられます。また、この地域はみさと団地が入居開始した昭和48年頃から生徒数が増え、昭和50年に彦成中、昭和56年に彦糸中が開校し、その後、さつき平の開発などを受け、平成2年に瑞穂中が開校しました。

今後この周辺の地域では、先ほども説明したとおり、多世代交流複合施設や三郷北部土地区画整理事業の計画があります。

キ 検討対象地域（南中・前川中）について

	<p>南中の令和10年度の生徒数は448人で12学級という推計となっております。前川中の生徒数は366名で10学級となっております。また、学校間の距離については525mで、近い距離関係にあることが見てとれます。さらに、通学距離の基準である半径3kmについては、どちらの学校も十分半径3km以内に入っています。</p> <p>この地域の特徴として、南中については当面、標準規模校を保つこと、前川中については標準規模の基準である12学級に若干届かないことが挙げられます。また、この地域は昭和22年に南中が開校し、昭和57年に前川中が開校しました。</p> <p>今後この周辺の地域では、先ほども説明したとおり、鷹野小の北側、三郷南IC付近で、南部拠点整備計画に基づく整備予定地Iとして、交通拠点機能などの計画を検討していくことになっています。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
会長	学校の小規模化の進む地域についての説明が終わりました。質問やご意見がありましたら、お願いいたします。
委員	2点お伺いいたします。1点目は「村だった時代からある古い学校も統廃合の検討対象になり得るか」です。2点目は「建物の築年数も検討材料とするべきか」です。例えば、古い学校を改修するより、新しい学校を改修した方が費用等を低く抑えられるなどの利点があると思います。その辺りを具体的に教えてください。
事務局	早稲田小が明治17年、彦成小が明治6年、戸ヶ崎小が明治6年、八木郷小が明治26年の開校で、この4校は、本市のなかでもかなり古くからある学校です。事務局としても、地域に愛され、地域との連携による円滑な学校運営を推進するために、各学校の地域性と成り立ちの経緯といった歴史的背景を踏まえ、学校統合を行う場合は、これらの沿革についても十分配慮すべき重要事項であると考えておりますが、このことをもって、学校統合の検討対象から絶対に外すとは言えません。また、ご指摘のとおり、建物の築年数についても考えていく必要があります。古い学校を改修するより、新しい学校を改修した方が費用等を低く抑えられるなどの利点があります。さらに、校舎の大きさ、つまり、保有教室数という視点もあります。そういった点も含め、さまざまな要素を総合的に考えて、学校統合を検討する必要があります。
委員	これらの小学校4校については歴史がありますので、私としては残していきたいという考えです。そのことについては、十分配慮して進めてください。
会長	実際に統廃合を進める際は、委員からそういった話があったことは、重要事項として十分配慮してください。他にありますか。
委員	小学校は5地域、中学校は2地域が検討対象地域として示されていますが、これらの統合の検討は一度に行うのか、それとも何段階かに分けて行うのかを教えてください。
事務局	今回は、令和10年度の学級数推計が12学級に満たない小規模校及びその周辺の学校を1つの地域として、小学校5地域、中学校2地域をお示ししました。本市における過去の学校統合の実績としては、平成10年代に1校、平成20年代に1校です。今回お示したこれらの地域についても、一度に学校統合することは考えておりません。今後、どこの地域から具体的な検討を開始していくべきか、それとも状況を注視していくべきかについて、この審議会で話し合っていきたいと思っております。なお、小・中学校ともに1

	<p>2学級に満たない学校を小規模校としていますが、中学校については6学級以上あれば各学年でクラス替えができます。少子高齢化が進む社会状況にあってもクラス替えができる教育環境を提供したいとの思いがありますので、現時点で単学級が数多くあり、その状況が当面継続していくような地域から優先的に進めていきたいと考えております。</p>
委員	<p>明治時代に開校した4校以外については、昭和45年から昭和55年までの10年間に多くが開校しているため、建物の耐用年数が迫っていると思います。この耐用年数となるタイミングで周辺の整備をしていった方がよろしいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>本市の学校の多くは、昭和40年代から昭和50年代に開校しました。これは、団塊ジュニア世代が学校へ通う年齢になったことや、みさと団地や早稲田団地ができたことなどにより、児童生徒数の増加に対応するためのものでした。その頃に建てられた建物は築年数でいうと既に35年から50年経っており、一般的な耐用年数とされる50年を超えている建物もあります。この点については、教育環境整備計画とは別に、学校教育施設個別計画の中で、建物の長寿命化に向けた計画的な改修等の考え方を示しておりますので、その中で検討してまいります。しかしながら、学校統合を考える際には、校舎等の築年数も重要な要素であると思いますので、次の審議会では、学校統合した場合の児童生徒数、築年数、保有教室数といったものも示していきたいと思います。</p>
委員	<p>後谷小は、将来、老人福祉施設として改修できるように建築したと聞きました。統合後の施設利用の方法として、こういったことも検討しているのですか。</p>
事務局	<p>事務局でもその噂はよく聞きますが、老人福祉施設に改修できるように建てたという事実はないと思われます。後谷小の外観が、当時の建築業界の流行りであったコンクリート打ち放し風で、お洒落な感じになっていて、典型的な学校らしい造りでなかった影響もあるのではないかと思います。</p>
会長	<p>私の新任教頭の学校は前間小で、当時の前間小の児童数は1,300人近くでした。前間小と後谷小が分離した後は、後谷小に配置されましたが、その時にも保護者が言っていました。おそらく昇降口に設置されていた車椅子用のスロープが当時珍しく、それが影響してそのような噂が広まったのかと思います。他にありますか。</p>
委員	<p>先ほど議題(1)自治体規模と学校数についてなのですが、松原団地については、建て替え事業により児童生徒数が増えてきたとの考えですか。</p>
事務局	<p>松原団地内にある松原小について調べてみたのですが、少しずつ増えている状況です。</p>
委員	<p>みさと団地は、一昨年にUR都市機構のストック再生計画に入りました。この計画の中では令和25年までの計画が示されていますが、令和15年くらいになると低層住宅の方は再生事業が開始される可能性が大いにあると思います。参考として、柏市にある豊四季団地もかなり高層化して再生事業をしております。このことから、今後、みさと団地についても生徒児童数が増え、標準規模校になる学校も出てくるのかなという期待もしているところです。学校統合を検討する際には、その辺の情報も考慮していただければと思います。</p>
事務局	<p>UR都市機構からこの辺りの情報を直接聞いたことはありませんが、もし仮に建て替え等があれば、若い世代の転入者が増えることも十分考えられます。特に新三郷駅周辺は、ららぽーと、イケア、コストコ等があり、この地域に団地の建て替えがあると子育て世</p>

	帯を含む若い世代が増える可能性はあります。そうなると、例えば、彦糸小と彦郷小、彦成中と彦糸中を統合した場合に、教室数が足りなくなることなどが考えられるので、慎重な判断が求められると思います。
会長	今度、事務局で情報を整理していただければと思います。他にありますか。
委員	1学級当たりの人数の基準は、統合前と統合後で同じですか。
事務局	本市は原則、埼玉県の基準に従っております。小学校の場合は1・2年生が1学級35名まで、3年生から6年生までが1学級40名までです。中学校の場合は1年生が1学級38名まで、2・3年生が1学級40名までです。統合後も同じ基準を適用していく予定です。次回の審議会では、今回示した7つの地域について、学校統合した時の学級数についても示していきたいと思います。
委員	三郷市は何年ごろから人口減少していくとお考えですか。数年前に、平成50年（令和20年）頃には日本の総人口が8,500万人くらいになるという推計を見ました。三郷市の人口もそれに応じて減少していき、児童生徒数も併せて減少すると思われるので、その推計を教えてください。
事務局	本市全体の人口の推計値についての資料は手元にありませんが、児童生徒数の推計値についてお示しできます。小学校の児童数は令和7年頃にピークを迎え、その後、減少し、平成30年と同じ水準になるのは令和12年頃と推計しています。中学校の生徒数は小学校から少し遅れて推移しますが、令和10年頃にピークを迎え、その後、減少していくと推計しております。
委員	私の所属する町会は、全て前谷小の通学区域です。町会の人数は減少傾向であり、子どもの人数についても、子ども会や夏休みのラジオ体操などから毎年減っている様子が見えがえます。教育環境整備計画によると前谷小については、令和10年度以降も標準規模校であると推計されていますが、実感として、本当に前谷小がこのまま標準規模校でいられるのかなと思います。どのように児童生徒数の推計しているのかを教えてください。
事務局	まだ生まれていない子の推計等については専門的な知識を要するため、コンサルタント会社に業務委託をして、出生率、純移動率、生存率などを基にしたコーホート要因法という方法で推計を行いました。しかしながら、実際にその地域に住んでいる方の実感などは、貴重なご意見としてとらえていきたいと考えております。
会長	ありがとうございました。他にありますか。
委員	小学校の検討対象地域として「丹後小、前間小、後谷小の地域」と「戸ヶ崎小、吹上小、前谷小の地域」は、それぞれ3校が示されています。これは3校について統合すると考えているのか、それとも3校のうち2校について統合することもあるのかを教えてください。
事務局	今回は、令和10年度の学級数推計が12学級に満たない小規模校及びその周辺の学校を1つの地域としてお示ししました。そのために、それぞれ隣り合っている学校として3校を示している地域もあります。 例えば「丹後小、前間小、後谷小の地域」ですが、前間小と後谷小がすべての学年が単学級あるいはそれに近い小規模校です。丹後小は小規模校ですが10学級あります。ま

	た、3校を統合するか2校を統合するかについては、学校の校舎の大きさによる教室数の上限による制約もありますので、まずは、検討対象地域をお示しし、そこから統合する学校数を検討していこうと考えております。したがいまして、必ずしも3校を1つにするものではありません。
会長	ご質問は以上でよろしいですか。 学校の小規模化の進む地域につきましては終了します。 以上で本日の議題は全て終了いたしました。

5 事務連絡

会長	事務連絡について、事務局からお願いいたします。
事務局	(事務連絡)

6 閉会

会長	以上をもちまして、本日の審議会を終了いたします。閉会にあたり、副会長にごあいさつをお願いいたします。
副会長	(副会長あいさつ)
会長	ありがとうございました。皆さんお疲れさまでした。

以上